

[Kaffeeklatsch] 10

スマトラ島アチェ・ガヨ・タケンゴンにコーヒーの力を

広島修道大学教授 中根 光 敏

5年8ヶ月の間、待ち焦がれていたスマトラ島への訪問が2025年10月31日～11月9日の日程で叶った。スマトラ島へは訪れる度に新しい発見があり、いつも感心させられるのであるが、今回はこれまで以上に格別な旅となった。

11月2日、12時間かけて、北スマトラ州メダンからアチェ州タケンゴンへ向かう途中だった。アチェ州に入ると、街々でクルマの窓から`GAYO、`KOPI、`KUPI、`Coffee、の文字が入ったカフェの看板が目につくようになった。ガヨ山脈に入って、サラクSalakという見晴らしの良い高地でもガヨ珈琲を提供するカフェが数軒できていた。こうした変化が、アチェ州のコーヒーツーリズム政策と関係しているということを知ったのは、最高級マンデリンの産地・タケンゴンTakengonに着いてからだだった。



野生の麝香猫の糞
(2025年11月5日)

私がコーヒー都市と呼ぶタケンゴンはさらなる変貌を遂げていた。コーヒーツーリズムによって、インドネシア国内からの旅行者が増え、街は活気に溢れていた。マイクロミル（現地ではまだ呼び名はない）を備えた農園が増え、精製方法によるgreen beansの差別化が進んでいた。さらに、タケンゴンには、焙煎に特化したロースターが200軒近くにまで増えていて、これらの店ではgreen beansを持ち込めば1kgあたり200円程度で焙煎を請け負っていた。驚いたのは、飛躍的に進歩した焙煎技術である。スマトラ式、ナチュラル、ロングベリー、ピーベリーなどのgreen beansを香味の違いで楽しめるように見事に煎り上げる。

11月5日朝には、生涯忘れられない好運に恵まれた。コーヒー農園内に手作りされた休憩所みたいな小屋で、野生の麝香猫の糞（写真）にお目にかかれたのである。これまで夜間のスコールによって洗われバラバラになった糞や人工飼育の糞は見たことがあったけれども、野生の麝香猫の糞に遭遇できたのは初めてである。

11月9日にメダンを発つ際、私の滞在期間にほとんどスコールに遭わなかったことに気づき、何か嫌な予感がした。11月23日、マラッカ海峡付近で発生したサイクロンによって、スマトラ島は甚大な被害を受けた。陸路が遮断され、停電し物資が底を突く状況で、タケンゴンの友人たちが無事を知らせてくれたのは、12月3日深夜だった。

これからスマトラ島・タケンゴンが災害復旧・復興していく際に、私はコーヒーが大きな力を発揮すると考えている。コーヒー都市タケンゴンが復旧・復興していくことを願うとともに、私は`コーヒーの力、を信じている。

【付記】本稿は2025年度広島修道大学調査研究費（ひろみら領域研究）を受けて行っている「グローバル化と社会変容」と題した共同研究の成果の一部である。

喫茶店のマッチ
コレクション
⑬

吉祥寺の名曲喫茶 「バロック」のマッチ

村田商會 村田 龍一

この回の原稿を書いているときはまさに2025年の年末で、例年以上に慌ただしい毎日を過ごしております。皆様も無事に新年を迎えられていますように。

さて、年末となると話題になるのは喫茶店の閉店のしらせの話です。

弊社がある西荻窪の隣駅、荻窪駅北口にある「荻窪邪宗門」が一带の再開発により移転される、というニュースが秋に飛び込んできました。

荻窪邪宗門は学生だった頃より好きで、何度通ったかわからないほどのお店です。急な階段を上がり、席について頼んだものが供されるまで待つ時間も至福と思えるお店でした。特に窓

際の席が空いていた時はそこに陣取って商店街を行きかう人々を眺めるのが好きでした。

荻窪邪宗門は閉店ではなく「移転再開」とのこと、現時点ではどうなるのか詳細はわかりませんが、また移転した邪宗門にも訪れることができるよう、強く願います。

吉祥寺の名曲喫茶「バロック」が2025年の年末に閉店されるとの報を聞いた時も驚きました。

名曲喫茶というものに入ったことのなかった学生の頃に、初めて入った時の緊張感をまだ覚えていますが、クラシック音楽にはさほど詳しくないので、かかっているレコードの作曲・演奏がホワイトボードに記されるの

で、好きな演奏が流れたら覚えておいて後日自分でCDを買って聴いてみたいということもありました。近年では盤が変わる間に、このホワイトボードをスマホでメモ代わりに撮影している若い方の姿も目にします。

バロックのマッチ箱を紹介します。一枚目、薄紫色のものは私が初めて訪れた2002年頃にいただいたものです。いかにも格式高いクラシック喫茶、という感じがしますが、2014年に訪れていたいただいたマッチ箱は全面

的にリニューアルされており驚きました。当時マッチ集めの仲間の間でも話題になったことを覚えていきます。

新しいマッチ箱には「OUR MASTER'S VOICE」の文字と、蓄音機に耳を傾ける男性が描かれています。元ネタは言わずもがなですが、どういった意図で、どなたがイラストを描いたのか、等、聞いてみたいことはいくつかあったのですが、叶わぬことなりそうです。

荻窪邪宗門も、バロックも、中央線沿線の喫茶店では私が生まれる前から長年続けられてきたかなりの老舗で、どうがんばっても追いつけない両隣の大先輩のお店がほぼ同時に姿を消してしまうという喪失感は大きいです。

長年お店を守り続けて来られた店主と関係者の皆様には感謝しかありません。

と、つい失われるお店のことばかり考えがちですが、2025年は新たにできる喫茶店のお手伝いや閉店する喫茶店を第三者に継承するお手伝いなどのお仕事も少しさせていただきまして。蒔いた種が今年花を咲かせるようになればと願うのみです。

この連載も早いもので4年目に突入しました。珈琲店経営に役立つ新しい情報やノウハウなどは皆無で、どうしても過去の話、むかしあったお店の話に偏りがちですが、今年（2026年）もどうぞお付き合いください。

村田商會 東京都杉並区西荻北3-22-17。
定休日…月・火。営業時間…12時～19時

